

平成27年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成28年2月23日開催 やまと会議室 5階中会議室

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき平成27年度に実施した、4つの大課題に含まれる27の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿 評価委員の委員長は、委員の互選によって選出（五十音順）

評価委員氏名	役職・肩書き
神澤佳子	消費生活アドバイザー
重岡 成	近畿大学農学部長
中尾 静子	奈良県指導農業士会会長
福谷 健夫	奈良県農林部長
宮尾 憲明	奈良県指導農業士会前会長

各研究課題の評価（5名の評価委員の平均値で記載）

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
薬用作物の安定供給	優良品種の育成	1	ゲノム育種等による優良品種の育成	4.5	3.7	3.5	11.7
			・マーカー遺伝子の候補者を選定できたことは評価に値する。マーカー遺伝子(11個)候補の中に、選抜に役立つ遺伝子が存在すること期待する。 ・他にはない研究であり今後の成果が期待される。				
	省力・安定生産技術の開発	2	省力化技術の開発	4.7	3.8	3.6	12.1
			・省力化のための著しい効果は出ている。現時点で、省力化はマックスか？さらなる、改善の余地は残されているのか？ ・いずれも省力化の効果が大きく実践的な技術と評価できる。				
生薬以外への利用に向けた生産技術の開発	3	安全・安心で安定多収技術の開発	4.3	4.0	3.3	11.6	
		・カメムシの吸汁による発芽率の低下が大きな原因となることを明らかにしたことは良い成果と考えるが、それを防御するために対応は具体的にどのように考えるのか？深層局所施肥は、具体的にどのようにして行い、労力的にも変わらないのか？					
		4	トウキ葉の安定生産技術の開発	4.5	3.9	3.3	11.7
			・半刈りによる効果は、葉での光合成による糖の生成、そして葉から根への転流などのバランスが取れたことによる、根の収穫量のアップということか？ ・トウキ葉が食用として利用可能なら、消費者の健康志向に応えるものと期待できる。				
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	5	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.7	4.1	4.1	12.9
			・イチゴ果実の食味・形状、酸味などによるこれまでの経験で交配育種が進行していることは良いが、最終的に優良品種が選抜された場合、従来のものとの数値的な比較が必要となるのではないか。 ・マーケットを意識した開発として評価できる。実現に近づいており、今後の成果に期待している。				
	産地間競争に打ち勝つギク品種の育成	6	甘さを左右する遺伝子の解析による選抜技術の開発	4.3	2.8	3.2	10.3
			・葉のショ糖レベルと果実のレベルの違いは、転流に依存するのであるが、ショ糖合成酵素遺伝子の発現との関連ももう少し詳しく調べてみる必要があると思われる。 ・今後の取組みに期待している。				
		7	気象変動に左右されない安定した開花特性を持つ小ギク品種の育成	4.9	4.1	4.0	13.0
			・品種登録出願は評価に値する。品種登録される8月咲きの優良品種のこれからの維持管理はどのように行うのか。				
		8	芽かきの不要な無側枝性二輪ギク品種の育成	4.5	4.3	4.0	12.8
			・品種登録出願は評価に値する。				

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
優良品種 の育成	産地間競争に打ち 勝つキク品種の育 成	9	遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品 種の育成	4.7	3.5	3.5	11.7
		<ul style="list-style-type: none"> ・わい化の原因となるウイルス抵抗性実生の確実な選抜に期待する。 ・5年間の研究での成果が期待できる経過である。 					
	10	交配による新品種候補の作出と、遺伝子 解析による10月下旬～11月上旬に出荷で きる甘柿の早期選抜	4.7	3.4	3.9	12.0	
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子診断で甘柿と判定された49種類の中に、魅力ある中生品種があることを期 待する。 							
優良品種 の育成	産地間競争に打ち 勝つキク品種の育 成	11	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.2	3.3	3.1	10.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・露葉風と高い品質のコメとの交配での、新規の酒米の育成に期待するが、個体選 抜ののち、従来コメとの明確な数値的比較が必要になると思われる。 					
	遺伝資源の保存と 活用	11	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.2	3.3	3.1	10.6
<ul style="list-style-type: none"> ・露葉風と高い品質のコメとの交配での、新規の酒米の育成に期待するが、個体選 抜ののち、従来コメとの明確な数値的比較が必要になると思われる。 							
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	イチジクなど奈良 オンリーワン加工 品の開発	12	オリジナリティ溢れるイチジク加工新商 品の開発	4.3	4.0	3.6	11.9
		<ul style="list-style-type: none"> ・30%加糖で美味しいグラッセが開発されたことは評価する。 ・イチジクの加工品として新規性がある。和菓子風で独特の風味がある。 					
	奈良特産品の成分 分析と調理・加工 法の開発	13	辛くない燃焼成分（カプシエイト）を持 つひもとうがらしの食材活用	4.0	4.0	4.0	12.0
			<ul style="list-style-type: none"> ・雨除け栽培とは具体的にどのように行われ、なぜ香り成分が多く残るのか？ ・飲食店との共同での開発がうまくいっていると思う。食材の普及にも効果的であ る。 				
		14	大和野菜粉末と県産小麦を用いた彩りそ うめんの開発	4.0	3.1	3.1	10.1
	<ul style="list-style-type: none"> ・窒素分の追肥によるタンパク質レベルの向上は理解できるが、具体的にはどのよ うに施肥するのか？ ・奈良の新しい特産品となるよう今後に期待している。 						
	機能性成分に着目 した新商品の開発	15	大和野菜の機能性評価と機能性を活か した新商品の開発	4.2	3.1	3.1	10.3
<ul style="list-style-type: none"> ・ねぶかに含まれるACE阻害の新規の活性物質を同定されたことは評価に値する。ね ぶかにどれくらい含まれるのか？さらに、含量を増加させるのか？ 実質的な活用 法はどうするのか？ 							
16		糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした 「特定保健用食品」等新商品の開発	3.8	3.1	3.1	10.0	
<ul style="list-style-type: none"> ・タンニンの機能安定化のための低分子化は理解できるが、従来のタンニンがもつ 血糖値抑制効果を最大限に発揮させるためには、どの程度（数値的に）の低分子化 をすべきかなども考慮すべきである。 							
機能性成分に着目 した新商品の開発	17	食品添加用粉末茶とそれを用いた機能性 食品の開発	4.7	3.4	3.3	11.4	
		<ul style="list-style-type: none"> ・お茶のカフェイン除去のために柿タンニンが有効であることは理解できたが、実 際にはお茶を飲むときはどのように処理するのか？ ・粉末茶の用途は今後一層広がる可能性がある。また低カフェイン飲料のニーズも あるので実用化に期待している。 					

大課題	中課題	番号	小課題	評価区分			合計
				必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
			評価委員の意見				
革新的な 生産技術 の開発	脱化学農薬！ 天敵利用技術の開発	18	飛ばないテントウムシ等を用いた害虫防除技術の開発	4.0	3.0	3.0	10.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・3回のアブラムシ放飼で効果があることの成果は評価に値するが、最終的な収穫にも大きく貢献するのか？ ・省力化の効果が上がっている。今後に期待。 					
		19	土壌への定着性を高めた微生物による土壌病害防除技術の開発	4.2	3.5	3.3	11.0
			<ul style="list-style-type: none"> ・大豆を使った微生物処理は、ユニークな発想で面白い。ただ、現実として労力、コスト的にも普及するか？ ・着想に新規性がある。 				
		20	有機物投入と太陽熱処理による耕作放棄地の再生技術の開発	4.5	3.6	3.3	11.4
			<ul style="list-style-type: none"> ・種をまいて、刈取り、すき込むだけで土壌改良となることは、今後の普及に期待する。 ・必要な研究であり具体的な成果も上がっている。 				
		21	ロボット技術やセンサー技術の活用による農作業補助機械の開発	4.3	3.3	3.3	10.9
			<ul style="list-style-type: none"> ・高専との共同研究でのロボット技術、センサー技術の活用での労働の快適化・効率化に大いに期待する。普及には、コスト面が問題となるのか？ ・作業員目線の技術である。他の農作業での応用の可能性もあり今後の開発が期待される。 				
		22	DNAマーカーの活用によるウイルス等の診断技術・防除対策の確立	4.5	3.3	3.1	10.9
			<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子診断による二つの病原菌の検出技術の確立は評価する。今後は、この方法の普及が課題となると思われる。 				
		23	奈良の「特A米」品質向上技術の開発	4.2	3.1	3.3	10.6
			<ul style="list-style-type: none"> ・示されている表の結果から、7.5%のタンパク質レベルを目指すために現状としてどれがベストの条件か？0.1 mmの違いによるふりいで品質のばらつきが小さくなる成果は評価に値する。 				
		24	チャの早期成圃化技術の開発	4.7	3.7	3.7	12.1
<ul style="list-style-type: none"> ・従来の7年栽培を5年に短縮するには、数年の初期の段階でのセル苗生産、栽培密度などが重要であることの成果は評価に値する。 							
	25	日持ちの保証ができる「奈良の花」品質向上技術の開発	4.7	3.5	3.1	11.3	
		<ul style="list-style-type: none"> ・NaClの処理は具体的にどのように行うのか？ショ糖による効果は、これまで切り花の品質保持で報告されているものと同じであるが、これも具体的にどのように処理するのか？ ・消費者ニーズに応える技術である。 					
	26	耐雪対策技術の開発	4.5	3.1	3.6	11.2	
		<ul style="list-style-type: none"> ・補強資材のさらなる検討に期待する。 					
	27	雪下ろし技術の開発	4.3	3.0	3.3	10.5	
		<ul style="list-style-type: none"> ・実際には、どの程度のロープ強度で、どの程度の積雪量で行われているのか？ ・作業員の体力への配慮と安全性が確保できるよう検討を進めてください。 					